



ようこそつばさ共同保育園へ

園長 前川 良太

園庭や道路沿いの桜がきれいに色づいていますね。園長になって3度目の春を迎えています。今年度ははじめましての方も多いので少し自己紹介をしますね。私は熊取生まれ熊取育ち、アトムがまだ無認可保育所の頃の卒園児でもあります。アトムで体験した心地よさをこれから子どもたちにも、という思いで保育士になって戻ってきました。現在も熊取在住ですので、忙しい時期は熊取を一步たりとも出ない生活をしています。そんな日々の疲れたら、森の中でキャンプをしたり、私がサッカー小僧の頃から応援しているセレッソ大阪の試合を観に行ったりして発散しています（似合わないピンクのユニフォームを着て）。

我が家は4人家族で妻も姉妹園のアトム勤務、次男もアトムに通い、長男は先日アトムを卒園してこの春から小学校に進学しました。ついこの間まで家族みんなでひとつところにいたわけです。そんな我が家も4月から新生活のスタートです。皆さんと同じく、なんだかそわそわした春らしい心境でいます。



つばさの保育は全員野球です（サッカーファンと言いながら野球で例えます）。もちろん日常の子どもたちや保護者と一番近くで伴奏するのは担任たちの役目です。ですが担任だけがクラスに責任を持つわけではありません。私はもちろん今年から池本に替わってアトムから来た主任の烏野はじめ、みんなで一つのクラスのこと、一人の子どものこと、一人の親のことを真剣に考えます。日々の保育も、担任個人の思いで決まるものではありません。園として、さらには地域や社会全体として「子どもたちに必要な体験」を考え、その中で担任やクラスの個性が活かされるのです。個でありながら集団で、集団でありながら個であることを大切に、自己責任ではなく、ともに責任を担い、ともにつくり、ともに歩いていく——そんな保育を目指しています。

これは子育ても同じです。私自身、子を持つ親ですが、「自分たちだけで子育てをしてきた」と胸を張って言えるわけではありません。仕事でいない親の代わりに我が家で子どもたちにご飯を食べさせてくれる職員仲間や、夫婦喧嘩に付き合ってくれる職員も…(笑)一人の親としては、私たちも支えられ、また別の



ところでは誰かの支えになるように奮闘する日々を送っています。支え支えられて地域の中で子育てをしていく、そんな心地よさと安心を、この保育園での出会いを通して体験してほしいと心から願っています。

これからまた新たな1年が始まります。前理事長の市原がよく「保育は生活」ということを話していました。日々の生活に100点の連続はありません。ですが私たち親というのは、子どもが病気をしたり喧嘩をしたりけがをしたり嫌な思いをしたり、当たり前起こることはどこか想定の外に追いやってしまいがちです。ですが自分自身の育ちを振り返っても順風満帆な人生なんてないように、園での生活も順風満帆にはいきません。しかし100点でない日々でこそ子ども親も関わり合ったり育ちあったりするのです。どうか平坦でない日々をともに手を取り合って乗り越えていける仲間になれると嬉しく思います。今年度もどうぞよろしくお願いします。